

二〇二五年七月二五日

かなかなのこえに暮れゆく一山家

澄子

二〇二五年七月二四日

常滑の甕も干さるる梅筵

むべ

大空に万華散らしや揚花火

山椒

藍染のゆかたは祖母の形見なる

千鶴

二〇二五年七月二三日

観音の裳裾引つ張る蜘蛛の糸

康子

二〇二五年七月二二日

貝殻を耳に当つれば波の声

山椒

白樺の梢隠れに避暑ホテル

澄子

祈れとぞ木椅子置かれし樹下涼し

むべ

二〇二五年七月二二日

二タ三こと語りかけもし墓洗ふ

康子

二〇二五年七月二〇日

畳目の頬にくつきり昼寝ざめ

千鶴

二〇二五年七月一九日

神護寺の仁王は小柄門涼し

明日香

毎日句会みのる選・二〇二五年七月二七日